

令和5年度 アーツナビゲーター研修

基本事項	事業名	アーツナビゲーター研修						
	(1)研修	時期・日数	8/19、9/16、11/18、12/16、1/20、3/16 計6日間	講師	齊藤佳代	参加者数	のべ30名	
	(2)おしゃべりアートデイズ	時期・日数	7/15、10/21、11/18、12/16、1/20、2/17、3/17 計7日間	講師		参加者数	のべ58名	
	(3)そのほか	時期・日数	9/12、11/8 計2日間	講師数		参加者数	のべ44名	
	担当者	学芸:辻瑞生 事務:石井令奈						
	目的・目標 (総括表)	美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちや作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらう。						
	キーワード	主体的な美術鑑賞、異なる視点の共有						
他団体との連携 (共催、協力等)	特になし							
該当展覧会	「手のひらから宇宙まで」		「ニューホライズン」		「前橋の美術2024」			
①投入(支出)・③結果(収入)	印刷物等	チラシ(A4)						
		0部						
	財務指標	収入(A) 別表から転載	支出(B) 別表から転載	収支比率 (A)/(B)	一人当たり コスト	収入内訳		
						参加費	助成金	他
	予算	-	525,000円	-		-	-	-
	決算見込	-	376,290円	-		-	-	-
差額	-	-148,710円	-		-	-	-	
予算/決算	-	71.7%	-		-	-	-	
②内容・活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。					
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み ・新たな試み 関連イベント 助成 など	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかける。					
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]						
		新たな試みの実績	ナビゲーターとして経験を積んでいる継続者のモチベーション維持のため、活動の場を広げること目的に、前橋市生涯学習課の「それいけ！まえばし出前講座」に登録した。2団体から申し込みがあり、アーツナビゲーターのべ5名を派遣した。					
③結果	数値目標	指標1	目標	おしゃべりAD参加者数:100人		実績	132人	
		指標2	目標	受講継続者数:10人		実績	14人	
		指標3	目標	広報掲載:2回		実績	0回	
③結果	進捗管理 [スケジュール観]	① A)概ね円滑に進んだ B)遅延気味であった(内容:)						

令和5年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

事業名	アーツナビゲーター研修				
④ 成果	観覧者層のターゲット (転記)	ターゲット: 事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人			
	成果	現在所属している14名については、数年にわたり本事業に関心を寄せてくださっているメンバー7人と研修2年目の7名である。コアは60-70代であるものの、10代が1名おり幅広い年齢層が<アート好き>という共通点で毎研修に積極的に参加してくれている。			
	ねらい1 (転記)	アーツナビゲーターのスキルアップと自主的な活動体制、定期的な「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り			
	成果	スキルアップに関しては、各ナビゲーターと外部講師との長年の信頼関係から、ナビゲーターそれぞれの個性・特徴に沿ったアドバイスがされるため、モチベーションを保ちながら無理なくステップアップできる仕組みが構築されている。「おしゃべりアートデイズ」に関しては展覧会開催時の第3土曜日を基本として活動することにしたことから、参加者を誘いやすくなったと聞いている。			
	ねらい2 (転記)	-			
	成果	-			
	ねらい3 (転記)	-			
	成果	-			
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<p><1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載></p> <ol style="list-style-type: none"> 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入 アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価⇒後日記入 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒後日記入 事業の実施に伴う波及効果⇒ 昨年度に引き続き、アーツナビゲーターの中から、群馬県立館林美術館や中之条ビエンナーレなど近隣他館でも対話型鑑賞の活動を行う人がでてきた。 地域資源の活用という点での効果⇒後日記入 意図せざる(思わぬ)効果⇒後日記入 			
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②.良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	<p>昨年度から対面での対話型鑑賞を再開し、展覧会開催中の第3土曜日に定例としておしゃべりアートデイズを開催することができた。展覧会関連イベントと重複しないよう、学芸内で実施の理解と協力、調整をはかる必要がある。</p> <p>これまでG1は無料スペースとしていたので、どの展覧会でも無料で対話型鑑賞会を実施できていたが、今後G1から有料となった場合は、参加者の確保が今以上に難しくなる。もともと学校団体対応のプログラムとして始まり事業中止とともに、一般対象向けに少しずつプログラム変更してきたが、プログラム内容を再検討する時期にきているのかもしれない。</p>			
引継ぎ事項 (特記事項)					
コメント・意見	館長 副館長	年間展覧会に合わせ対話型鑑賞を実施することができた。また外部からの派遣依頼により鑑賞体験を実施することができた。学芸体制を本来の体制に戻していく中で教育委員会・学校現場との連携を検討し、必要となるナビゲーター数に向けた新規募集など課題を解決していく。			
	運営 評議会				